

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（国 語）

東京都北区立なでしこ小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	・言葉や文を書く活動が不足していた。また、マスを意識して形に気を付けながら書くことや、書く際の土台となる姿勢や鉛筆の持ち方などについて指導したが、十分ではなかった。 ・授業時間の中で、特殊音節を含む言葉や助詞について読んだり、書いたりすることは、できている。定着については、十分とは言えないので、自力解決できるよう繰り返し指導していく。	・言葉や文を書く活動をする時間を増やしていく。朝学習や学習タイムなども活用して繰り返し取り組めるようにする。個別指導を増やしていくことで、言葉や文を書く指導を充実させていく。また、マスを意識して形に気を付けながら書くことや書く際の土台となる姿勢や鉛筆の持ち方などについて、繰り返し指導していく。 ・特殊音節など読みの際に動作化する活動を取り入れて音と文字を視覚的に理解させ、定着を図る。また、多くの言葉をや文章に触れられるように音読や書くことの宿題を計画的に行っていく。	・ミニひらがな50音表カードを提示して自分で文字を探して書くことができるような手立てを取り入れていく。 ・週1回の図書の時間を確実に行うとともに図書の時間の充実を図り、児童同士が読み聞かせをしたり、おすすめの本を提示したりすることで本に触れる機会を増やしていく。
2年	・自分の考えを書く力を育む指導が、不足している。自信をもって、自分の思いや考えを表現する力を身に付けられるよう、個々の力に合わせた指導を充実させる必要がある。また、自己の語彙や発想を豊かにするために、他の考えを聞き、触れるための指導も同様に必要である。	・日々の常時活動として、作文の時間を確保したり、家庭学習の一環として短文を書く活動を取り入れたりする。 ・話し合い活動として、自己が話したり、友達の考えをじっくり聞いたりする活動を、意図的に取り入れ、「話す・聞く」時間を習慣付ける。	・作文の作法のみならず、撥音、拗音、助詞の使い方といった言葉の学習など、補習的な指導を行い自信をもてるようにする。 ・正しく書けた文章を称賛したり、他の児童へ紹介したりするなど、意欲的に活動に取り組む環境を整備する。
3年	・文章を書く課題に対する苦手意識が児童に見られるため、自分の意見や考えの伝え方をより丁寧に指導していく必要がある。 ・学んだ漢字をしっかりと定着させるために繰り返しの指導が必要である。	・考えをまとめるツールの使い方や、文章の型を分かりやすく説明し、一つ一つの段階での躓きを小さくしていく。 ・漢字の学習では書くことだけでなく、新出漢字の入った文章を音読することで漢字に触れる機会を増やしていく。また、宿題で漢字ドリルを活用し、継続して学習に取り組めるようにする。文章を書くときには、学んだ漢字を使うように指導していく。	・授業との並行学習として、日常的に読書や音読に取り組ませ、文章に触れることへの抵抗感を減らしていく。
4年	・日頃の漢字学習は、新出漢字の習得が中心となっており、既習の漢字の習得状況の確認や復習が十分にできていない。 ・タブレットを多くの場面で活用することで、児童の「書くこと」への抵抗感を軽減することができた。一方、キーボードでの打ち込みが多くなることで、漢字を読む能力と書く能力に乖離が生まれたり、基本的な文章の書き方のきまりが身に付かなかったりするなどの課題も出てきている。	・小テスト・再テストに向けた学習習慣を定着させ、新出漢字の確実な習得を目指す。新出漢字の学習を早めに完了し、3年次までに学習した漢字を含む復習を行う。 ・文章を書く活動を多様な場面で取り入れ、タブレットを使う場面と、紙に書く場面を適宜選択し、書く学習を充実させる。文章の添削を丁寧に行之、文章の書き方、言葉の用い方指導する。	・日記や意見文（NIEタイムなど）といった自己と関わる話題について文章を書く機会を作る。 ・新出漢字の学習では、その漢字を使った様々な熟語を取り上げ、複数の使い方を紹介することで、漢字を使用できる場面を広げる。
5年	・年間を通して書く活動が少なく、書く活動への抵抗感を減らすための支援が必要である。 ・句読点がない、文末の敬体が揃っていないなどの実態がある。文章を書く際の基礎的な部分の定着に向けての指導を繰り返す必要がある。	・自分の意見や考えを書かせる習慣を国語科も含め、各教科の学習時間中に取り入れる。 ・文章を書く活動を多様な場面で取り入れる。日記や意見文等、書くことで楽しみが広がるような課題を選ぶ。また、構成や文章を書く際の基礎的な部分を学習する時間をとる。	・NIE学習に年間通して取り組む。新聞を読んで関心をもった記事を自分で選び、自己の感想や考えを200字程度でまとめる活動などを行う。 ・年間を通して、学習内容に関連する様々なジャンルの本を紹介し、多様な文章に接することができるようにする。
6年	・自分の考えをより詳しく表現することが苦手な児童が多いので、情報をもとにさせたり、交流活動で考えを深めたりさせる必要がある。 ・漢字小テストに向けた漢字練習をするという学習習慣が定着したことで、正答率の向上を図ることができた。	・昨年度から毎週末に日記や月末の振り返りを書く活動を取り入れており、今後もまとまった量の文を書く活動を多様な場面で実施する。 ・自分の考えを相手に伝えるように表現することや、相手の情報を正確に読み取り、さらに深めていく関わりを指導する。	・NIEの取組を6年生になってから毎月2回のペースで実施している。興味のある記事を友達同士で共有し合い、考えたことを伝え合ったり、文章にまとめたりして交流する活動を行う。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社 会）

東京都北区立なでしこ小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	・「わたしたちがすんでいる北区」では、区役所などの王子周辺の見学を検討したが実施が困難となるなど学習テーマによって体験的学習の設定が困難であり、児童の興味関心を高めることができていない。	・買い物調べ・お店見学・昔の道具体験など実際に自分で見たり体験したりする活動を多く取り入れ、児童の意欲・関心を高める活動や発問を意識して行う。教材の特性を考慮して学習過程を工夫し、内容の配列や時間配分を考える。	・体験的学習などから気付いた児童の課題意識を大切にし、学習したことの関連性や意味を考える活動を行う。また、地図やグラフ等の資料の読み取り方や方位等、社会における基本的な知識、技能を定着させるため、ラインズEライブラリーやスタディサプリを活用する。
4年	・児童が主体となり学習問題を設定し学習計画を立てるといった問題解決型の指導が不十分である。 ・社会的事象に関する知識の習得に関して、指導者としての知識・概念整理が不十分である。	・単元導入時における資料を工夫し児童の疑問を引き出すようにする。また、児童の予想をもとに学習計画を立てていく。 ・単元構成図を元に、小単元内で押さえるべき知識・概念を整理した上で指導にあたる。	・ラインズEライブラリーやスタディサプリを家庭学習で活用し知識の定着を図る。 ・他教科・領域と関連させながら既習の知識を活用させる場面を意図的に作る。
5年	・児童の興味・関心を高めた上で、資料を読み取り、資料からどのようなことがいえるかを考えていく学習を繰り返し行っていく必要がある。 ・社会的事象について考えた事柄を、自分の言葉でまとめる機会が少ない。	・習得した知識・概念を生かして資料を読み取り表現するなど、実際の問題解決の場面で役に立つという実感を持たせる。 ・資料を活用して表現し、友達と交流する機会を計画的に設ける。	・新聞記事を紹介するなど、児童が身の回りの生活との関わりを感じ、興味関心や学習意欲を高められるようにする。 ・学習した内容を周囲に発信する活動に取り組む。単元のまとめとして、新聞を作成したり、CMを考えたりする機会を設ける。周囲に情報を発信し、受け手の反応を実感させる。
6年	・児童と共に学習問題を作って、課題解決に向けて資料を読み取っていくという授業作りができていない。教師主体の知識注入型の指導から、児童主体の課題解決学習へと転換していきたい。	・単元の見通しをしっかりととつようにする。 ・児童の意欲や問題意識を基に学習が進められるよう、導入において自分が知りたい、考えたいことを引き出す指導を心掛ける。 ・単元に応じて、具体物、動画の活用など工夫する。	・単元テストまでに、ラインズEライブラリーやスタディサプリのドリル学習を活用して、基本的・基本的な知識の定着を図る。 ・単元のまとめでは、既習の知識を関連付けてまとめる活動を行う。

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	・「なかまづくりとかず」では、算数ブロックの操作をしながら、1対1対応を指導したことで、理解が深まった。1～10までの数について数量の大きさについては理解できたが、数字の書き方については、まだ定着していない児童もいるので、繰り返し指導していく必要がある。 ・繰り上がりなしの加法や繰り下がりなしの減法について、算数ブロックを用いた指導を行ったり、プリントや計算スキルを用いて繰り返し練習したりしてきたので、8割程度定着してきた。	・算数に対して苦手意識を持っている児童に対しても確かな理解ができるよう、具体物や半具体物を活用するなど視覚的な教材を用いたり、ブロック操作をしながら理解を深めさせたり、繰り返し練習する時間を確保するようにする。 ・計算が得意な児童については、加法や減法については、暗唱できるくらい練習させる。また、文章問題に取り組みせ、応用問題にも慣れさせる。	・朝学習やなでしこタイムの時間を利用して、繰り返し練習問題(プリントやきたコン(ラインズeライブラリ))などに取り組みせ、習熟を図る。 ・間違えた問題を解き直すことにより、学力の定着を図る。 ・自分の解決方法を皆の前で発表し、考えを交流する機会を作る。
2年	・理解を促そうとするために、一方的な講義型の授業や1問1答式の授業になりやすく、児童の理解度が高まらない内に、次の項目へ進まざるを得ない状況になりがちである。	・1時間の学習の中に、課題把握、自己の考えをもつ、みんなで練り上げるといった、活動の幅を広げて思考する時間を確保し、友達の考えを聞いて自己の考えを深めるための活動を意識して、授業を組み立てる。また、文章題に、繰り返し取り組み、解き方を身に付けられるようにする。	・習熟度の上がない児童には、個別の課題を提示したり、ポイントを絞った指導を行ったりする。文章の問いについては、図示するなど、補足やヒントを提示する。発展的指導としては、多くの文章題に取り組み、正確に早く問題を解ける力を身に付けられるようにする。
3年	・九九や2回繰り下がる減法の筆算などの既習事項を確実に定着させる指導が十分とはいえない。 ・意欲的に学習に取り組み、基礎的な計算や学習内容はできる児童が多いが、やや複雑な計算や文章問題の立式などに課題が見られるため活用する力を伸ばす指導が必要である。	・導入時には既習事項を確認したり、九九や繰り下がり筆算などを繰り返し行う時間を設ける。 ・文章問題では、問題場面を図に表したり、半具体物を操作したりして視覚化し、問題をイメージしやすくして立式できるようにする。 ・児童同士が考えを交流する時間を設けて交流による理解度の向上を目指す。	・朝学習やなでしこタイム等の時間を使って100マス計算や習熟プリントに取り組み、既習事項の定着を図る。 ・力の定着している児童には様々な考え方で問題を解くように促す。また、それを分かりやすく伝えられるように指導し、他の児童と学び合う機会を意識的につくっていく。
4年	・計算の仕方や問題の解き方をじっくり考えさせる時間が少ない。 ・四則計算の技能が定着していない児童に対して個別の指導が不足している。 ・図形や表・グラフの学習では、視覚的に分かり易い資料を用いるなどして指導していくことが重要である。	・授業の他に、家庭学習などで四則計算を定着させるための機会を作り、定期的に確かめを行う。 ・問題場面を図に表したり、半具体物を操作したりしてより一層の視覚化を図る。 ・自分で考え、考えを表現する時間を、十分に確保し、考えを深められるようにすると共に、児童同士が考えを交流する時間も確保する。	・朝学習やなでしこタイム等の時間を使って、東京ベーシックドリルなどに取り組み、四則計算の技能の定着を図る。 ・力の定着している児童には、様々な考え方で問題を解くように助言したり、それをわかりやすく伝えられるように促したりする。
5年	・基礎的な計算力、それを活用して問題解決する力など、個々に抱える課題にばらつきがあるため、個別の課題をより明確に把握した上での習熟度別指導が必要である。	・実体験との結び付きを実感できるよう、具体物や半具体物を提示したり操作したりしながら思考する学習展開を講じていく。 ・問題解決学習等において、児童同士が交流する時間を意図的に確保し、意見を出し合って問題を解決していく機会を設ける。	・朝学習や単元終了時などに計算ドリルや練習プリント、東京ベーシックドリル等を活用し、既習事項を確認する問題に取り組みさせる。 ・算数に関連する新聞記事や日常の事象を紹介し、算数の学びと日常生活とのつながりを実感させる。
6年	・公倍数や公約数について、正確に理解させる指導に加え、さらにその知識を使った問題や習熟のための時間が足りていなかった。 ・自力解決をする際の手立てとして図や数直線などを活用する指導が必要である。	・前時の復習や既習の学習の振り返りを行い、その知識を用いたら問題が解決できると気付くような展開を取り入れる。 ・児童の理解度に応じて問題を変えたり、考えの足がかりとなるように図表などで視覚的に表すことを指導したりする。	・隙間の時間を活用して、実態に応じたきたコンのドリル問題に返し取り組み、既習事項の定着を図る。 ・多様な考え方を発表させたり、ロイロノートで考えを見合ったりして、学び合える場をつくる。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

東京都北区立なでしこ小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	・校内で観察できる生き物や植物が少なかった。赤水門に行き、社会科「わたしたちの北区」と「しぜんのかんさつ」の二つを絡めた学習で補填することができた。実際の生き物や植物に触れ、一人一人が問題解決していけるように、計画を立てていく必要がある。	・一人一人が追究したい植物を観察できるように、時期を考えて植えさせる。その際は、天候不良なども考慮し、植える場所や数を調整する。 ・生き物の観察ができるように、校外学習を計画したり、外部講師を招いたり、意図的に計画していく。	・主体的な学びができるように、児童の身近な事象から問題設定する。単元のまとめでは、学習した内容を活用するような問題を出したり、ものづくりを計画することで、活用能力を伸ばしていく。
4年	・実験や観察の際、その結果から事象の働きや性質をじっくりと考えさせる指導が不十分である。 ・生物単元においては、実感を伴って知識を定着させる活動が不十分である。 ・主体的に取り組む態度を育むための、事象との出会いや問題把握の時間を十分取る指導が必要である。	・実感が伴うよう観察・実験の時間を十分に取るとともに、実験の結果から物質やエネルギーの働きや性質について思考する考察の時間を確保する。 ・事象との出会いの工夫を図り、問題解決型の学習を意識していく。 ・既習の学習と関連付けやすいように、学習内容を適宜掲示したり、資料として提示したりする。	・ラインズエライブラリーやスタディサブリを家庭学習で活用し知識の定着を図る。 ・学習したことを活用したものづくり、学習した方法以外にできる実験方法を考える活動を取り入れるなどし、学びを深められるようにする。
5年	・既習事項が日常生活に関連していると実感している児童が少ないため、学んだことを日常と結び付ける力に課題が見られる。 ・理科の学びの主体性を高め、学力の向上に繋げていけるように、学んだことの活用場面を意図的に設定していく必要がある。	・学習の導入において、自然事象との出会いに興味関心を抱けるような教材提示を行う。 ・ノートに問題解決の過程を整理して書いていけるように重点的に指導し、児童一人一人が思考の流れを意識できるようにする。	・新聞記事や文献から、理科に関連する内容を紹介し、日常生活との結び付きを実感させる。 ・単元終了時に模造紙にまとめた「振り返りマップ」を提示し、学びと日常生活との関連をつかめるようにする。また、復習問題を作成し、知識の定着を図る。
6年	・実物に触れさせ、身近な事象について考えさせると観察・実験に意欲的に取り組むことができる。一方で知識・技能の定着には課題が見られる。「分かったつもり」にさせないように、指導方法を工夫していく必要がある。 ・実験用具の名称や正しい使い方など、定着に向けてミニテストなどで確認する時間を設ける必要がある。	・事象のつながりや条件制御の意味など、理解しやすいよう板書を工夫する。それを参考に図式化してまとめさせたり、分かったことをペアやグループで確認し合う時間を作る。 ・朝学習や活動間の少しの時間でも効果的に活用し、クリップ動画の視聴やきたコンのドリル問題に取り組ませる。	・授業で使ったキーワードをつなげ視覚的にも思考の流れが分かる掲示にする。 ・理科支援員と連携し、顕微鏡などの実験器具を操作する技能テストを定期的に行う。 ・NIEの活動で、新聞やニュースの理学的内容を取り上げ、学習とつなげていく。